

条幅部自由参考

8月29日正午必着

明石春浦先生書

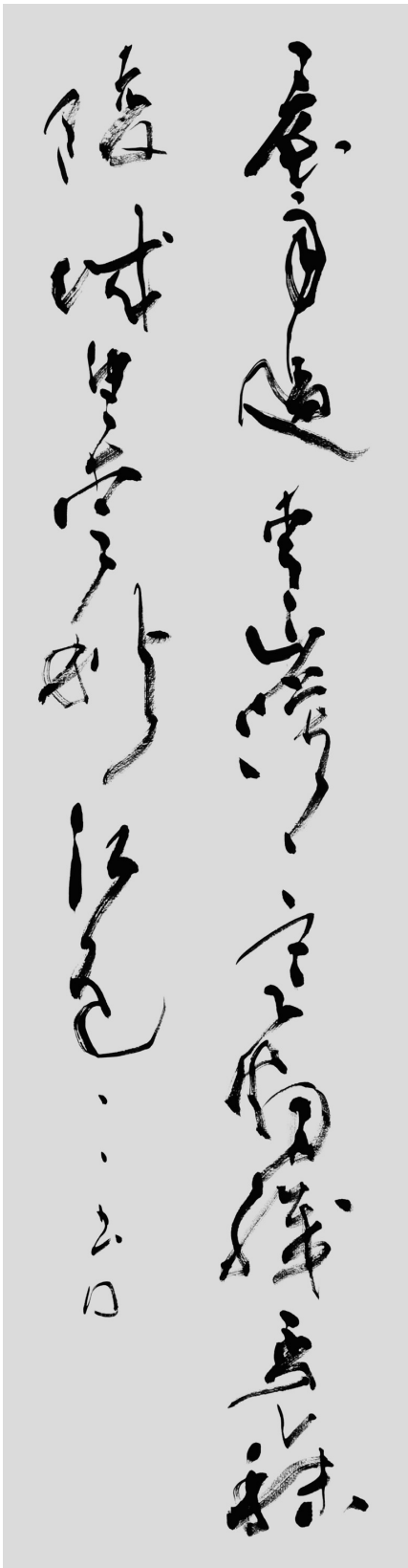


ものをあそぶこと、  
玩物喪志

(書經)

好みに従って、外物を愛玩すると、事の本質を失ってしまう。  
何事でも度を越えてはいけない。

明石幸子書



晨雨過青山 漠漠寒烟織  
不見秣陵城 坐愛秋江色

(王士禛)

青山に明け方雨すぎで、つめたいもやがたちこめ、目ざす秣陵の町もさだか  
に見えないが、この江辺の秋色はこよなくよい。秣陵は今の南京。



条幅部創作課題

四種の詩文から一種を選択して出品のこと。

竹邊 不知<sub>レ</sub>暑 (姚廣孝)

竹邊暑を知らず

竹林清風を送り來つて暑さを知らぬ。

北軒涼吹開<sub>二</sub>疎竹<sub>一</sub>。  
臥看青天行<sub>二</sub>白雲<sub>一</sub>。(蘇舜欽)

北軒涼は吹いて疎竹を開き  
臥して看る青天白雲の行くを

夏時、北窓に高臥して白雲の飛ぶを見るのである。

酬<sub>二</sub>普選<sub>二</sub>上人<sub>一</sub> (嚴維)

普・選<sub>二</sub>上人<sub>一</sub>に酬<sub>レ</sub>ゆ 嚴維

本意宿<sub>二</sub>東林<sub>一</sub> 因<sub>二</sub>聽<sub>二</sub>子賤<sub>一</sub>琴

本意<sub>二</sub>宿<sub>二</sub>東林<sub>一</sub>に宿せんことを 因りて子賤が琴を聴く

遙知大小朗 已斷<sub>二</sub>去來心<sub>一</sub>

遙かに知る 大小朗の 已に去來の心を斷つを

夜靜溪聲近 庭寒月色深

夜靜かにして 溪聲近く 庭寒うして 月色深し

寧知塵外意 定後更成<sub>レ</sub>吟

寧ぞ知らん 塵外の意 定後 更に吟を成さんとは

夏の穂にとまりて啼くよ富士が嶺の 裾野の原の夏の雲雀は (若山 牧水)

分 明  
手 發  
還

※作品には必ず落款を入れてください。

明石春浦先生書

※課題A(楷書)と課題B(四体の中より一書体選択)の二点を出品のこと。

半紙部規定課題B

8月29日正午必着

行書

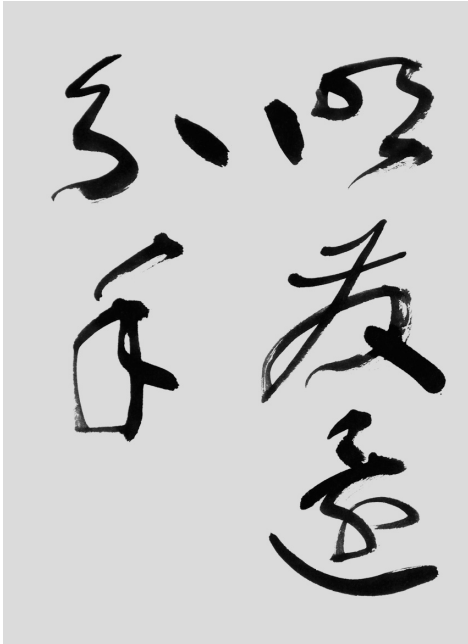


隸書

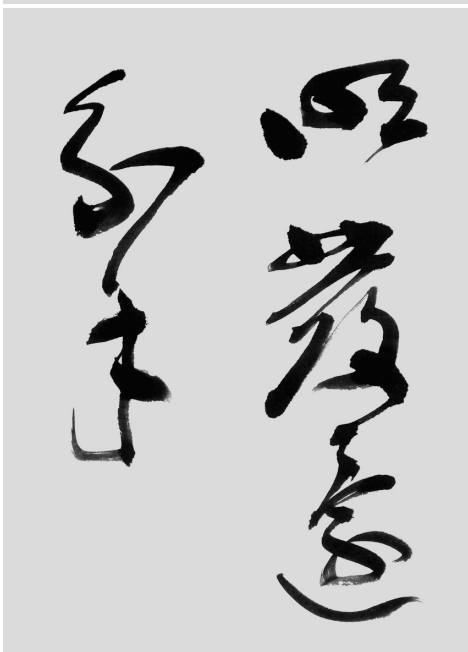


明石春浦先生書

草書



行草書



林中に住居には格別の楽しみもなく、花壇の垣根のほとりに茶を淹れるほどのこと  
 雀は北の窓辺に餌を啄んで日は暮れゆき、僧が西の閣をうち開けばひえびえとしている  
 橋につきあたりつつ、二つの川はすみやかに流れ、月光の下に撞く鐘の音はわびしくもうすれゆく  
 夜明けにはまたお別れせねばならぬ、前途の険しさをいたずらに悲しむばかり

龍翔喜「胡權訪宿」 喩鳥

林棲無異歡

煮茗就花欄

雀啄北窓晚

僧開西閣寒

衝橋二水急

扣月一鐘殘

明發還分手

徒悲行路難

竜翔にして胡權が訪ねて宿するを喜ぶ 喩鳥

林棲 異歡無し

茗を煮て 花欄に就く

雀は北窓の晩に啄み

僧は西閣の寒きを開く

橋を衝いて 二水急に

月を扣いて 一鐘残す

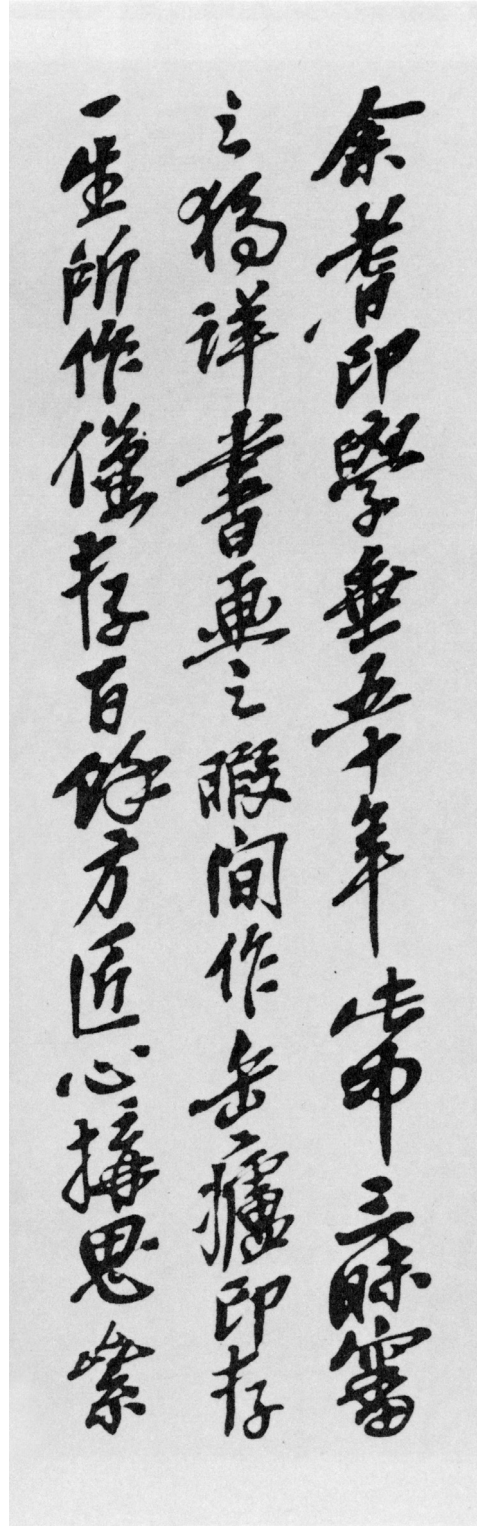
明發 還た手を分つ

徒らに悲しむ 行路の難きを

(出典)  
 朝日新聞社刊  
 「三体詩」下より

※「鐘」は「鍾」に同じ。

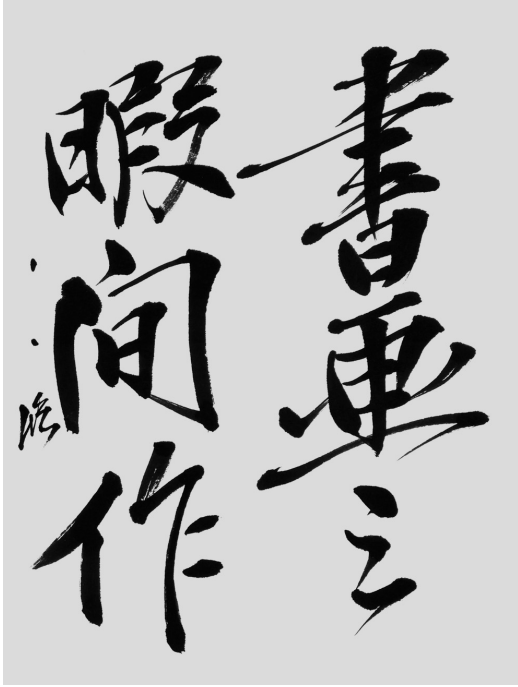
8月29日正午必着



余嗜印學、垂五十年、此中三昧、審之獨詳、書畫之暇、問作缶廬印存、一生所作、僅存百餘方、匠心構思、累一生之作所、僅かに百餘方を存す、匠心構思、累

三浦士岳先生臨書

吳昌碩・行草書



書畫之暇、問作

吳昌碩は清朝の道光二十四年に浙江省安吉県に生まれ、中華民國一六年に上海で没した。(一八四四—一九二七・享年八四才)名は俊長じて俊卿といい、字は昌碩、倉碩・蒼石・缶廬・苦鐵・老蒼などと号した。

清末から中華民國の初期は大動乱の時代で、十七才の時に太平天国革命の争乱が郷里に及び、一家は離散した。彼は難を逃れてひとり湖北省・安徽省などを五年間流亡した。二一才の時にようやく故郷にたどりつき、年老いた父と再会し、一緒に百姓をして生計をたてていた。

若いときから仕官の道にはまったく興味を示さず、ひたすら文学、芸術に打ち込んでいた。二九才の時故郷を離れ、杭州・蘇州・上海と遊歴し、文学を愈々学び、書を楊峴に、画を任頤に学んだ。一九〇四年に金石書画の研究団体として西泠印社が設立され、彼は推されて初代社長に就任した。久しく蘇州に住み、晩年には上海に定住し、文墨活動に励んだ。篆刻は十代から始め、書は中年以降晩年まで石鼓文の臨摹に没頭したが、王鐸や米元章を習ったといわれる行草書にも篆書の用筆法を取り入れた独自の直線的な連綿のスタイルを作り上げていった。

この書は弟子の徐新周(字は星周・他)が作った「馮花庵印存」に寄せた序文で、吳昌碩七十五歳の書である。

(春濤)

8月29日正午必着

余昔即學垂五十年帝祿審  
 之特詳書畫之暇間作缶壺印存

余嗜印學、垂五十年、此中三昧、審之獨詳、書畫之暇、間作缶壺印存  
 余は印學を嗜み、五十年に垂なんとす、此の中の三昧、之を審かにすること独り詳し、書畫の暇に、間に缶壺印存を作る、

《做書参考》

※この釈文での臨書部門の出品は出来ません。

白鶴忽飛還 松杉霽然暝 明月出谿橋 照見支筇影  
 月出谿橋照見支筇影

白鶴忽飛還。松杉霽然暝。明月出谿橋。照見支筇影。(高青邱)  
 白鶴、忽ち飛び還り、松杉、霽然として暝す。明月、谿橋を出で、照らし見る筇を支ふるの影。

8月29日正午必着

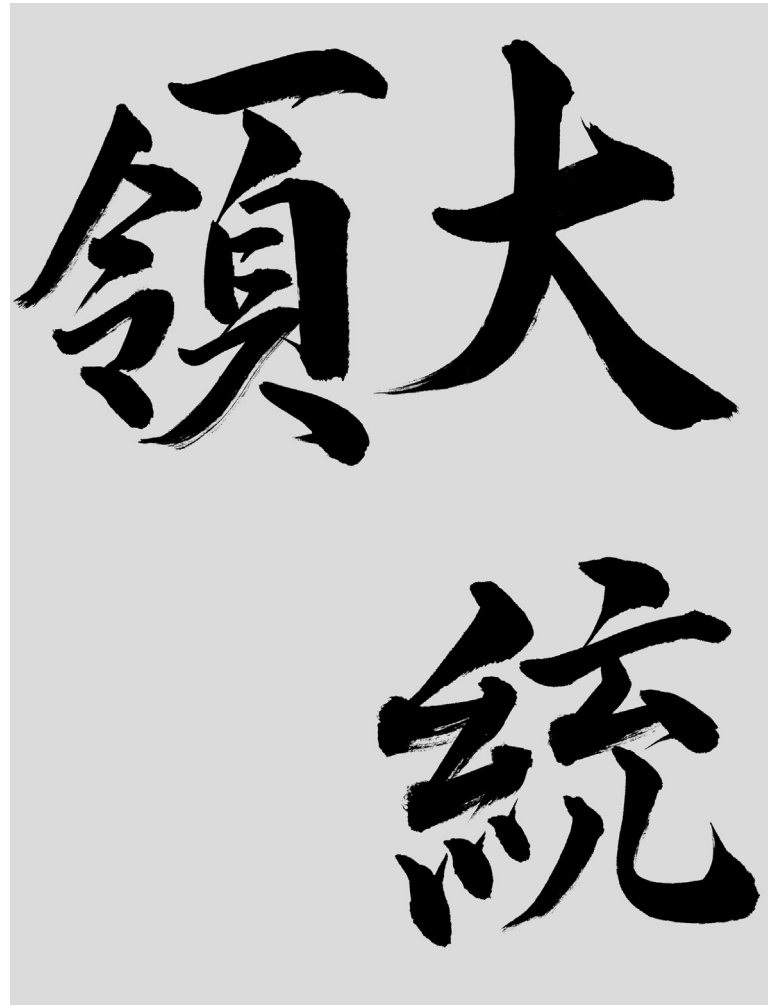
教育部毛筆



のう  
納      りょう  
涼

中学一年

雨宮春聲先生書



だい    とう    りょう  
大   統   領

中学二三年

菅井松雲先生書

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。



がっ  
合

しゅく  
宿

小学五年

榎戸春龍先生書



と  
徒

ほ  
歩

小学六年

横川春川先生書

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。



8月29日正午必着



たに

がわ

小学三年

藤田幸春先生書



なつ

やま

小学四年

細谷春誠先生書

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。



明石幸子書

む し 小学一年・幼年



森戸春濤書

てん さい 小学二年

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。

教育部硬筆

ペン字部

あめを買いました  
お祭りの夜店で綿

小学五年

夏は水の消費が多い  
ので節水に心がける

小学六年

田舎ですごく暑い夏の思  
い出は一夏の宝ものです

中学

出逢いも別れも知らぬまに  
ながれる歌を聴いていた

一般(級位)

恋すそいあがえはあだまきそらに  
けりく知れずんき思ひそめしか

一般(段位)

恋すそいあがえはあだまきそらに  
けりく知れずんき思ひそめしか  
(小倉百人一首・壬生忠見)

明石幸子書

※出品には玄和硬筆用紙を使用し幼年・小学は鉛筆 中学・一般はペンまたはサインペンで書くこと。(ボールペン不可)  
また、作品には必ず学年と氏名を記入してください。消しゴムを使用した作品は出品には適しません。

ち	う
い	み
さ	で
な	ひ
	ろ
か	つ
い	た

幼年

か	あ
ぶ	お
	ぞ
白	ら
い	に
く	
も	う

小学一年

小	川
さ	で
な	
	み
さ	つ
か	け
な	た

小学二年

上	な
が	つ
る	の
入	空
ど	に
う	わ
雲	き

小学三年

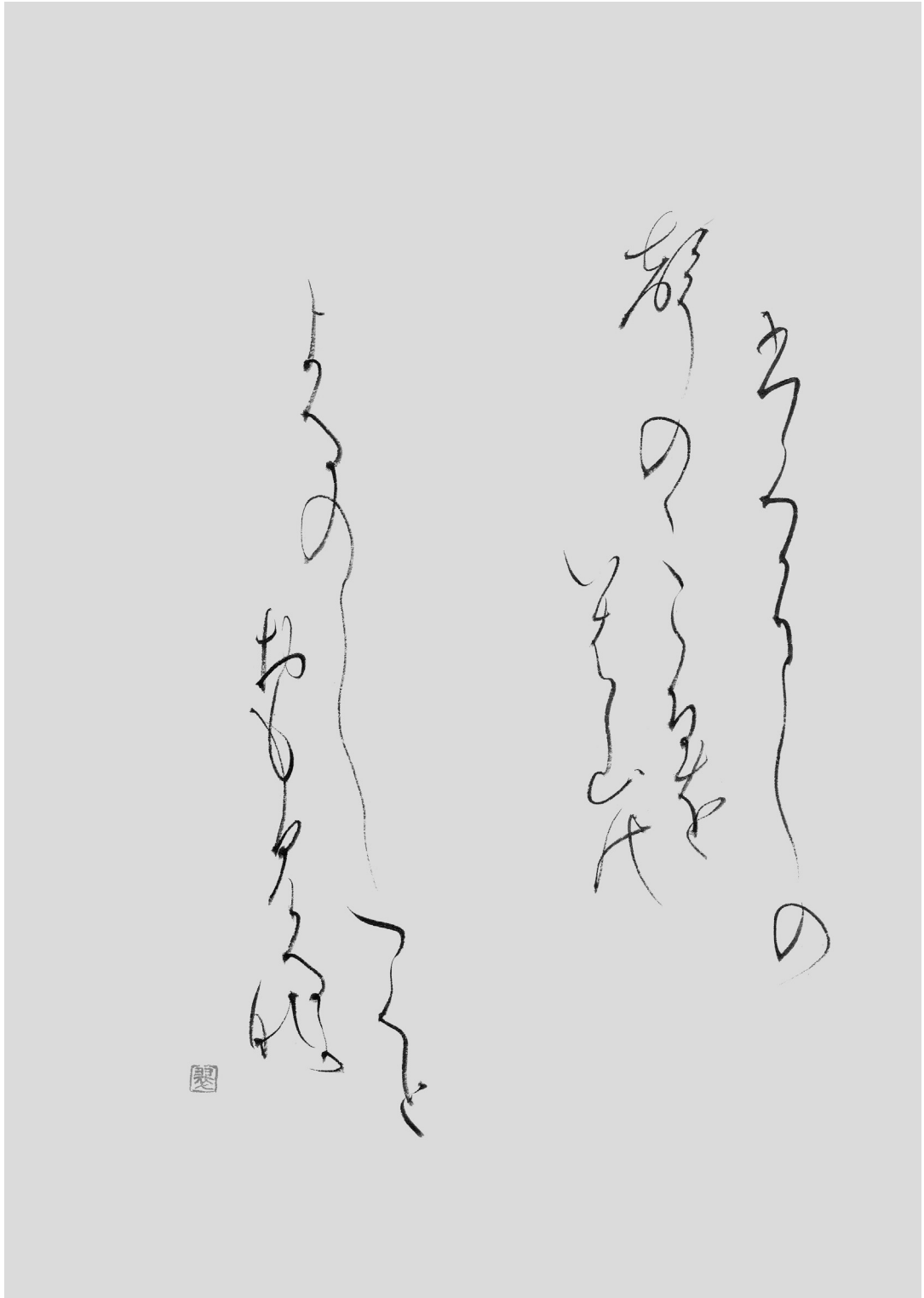
水	静
音	か
が	な
ひ	森
び	に
き	た
ま	き
す	の

小学四年

明石幸子書

※出品には玄和硬筆用紙を使用し幼年・小学は鉛筆 中学・一般はペンまたはサインペンで書くこと。(ボールペン不可)  
また、作品には必ず学年と氏名を記入してください。消しゴムを使用した作品は出品には適しません。

悲ひくらしの 聲のゝこるを いは山の よるのしつくと おもひけるかな  
者能 日介 可那 (与謝野晶子)



松永翠舟先生書